

第4回 ウポポイへの誘客促進に関する有識者検討会 議事要旨

- 1 日 時：令和6年3月14日（木）10:00～11:10
- 2 会議形式：WEB会議
- 3 出席者：〔委員〕矢ヶ崎座長、アトキンソン委員、石黒委員、関根委員、中村委員
〔北海道局〕橋本局長、田村大臣官房審議官 ほか
〔オブザーバー〕松浦内閣官房アイヌ総合政策室長、中村観光庁観光地域振興部長、
相田北海道環境生活部アイヌ政策監、
常本アイヌ民族文化財団理事長、對馬副理事長 ほか
- 4 議事及び主な発言内容
 - (1) 本日の議論を踏まえたウポポイ誘客促進戦略（案）の修正及び取りまとめについては、座長一任となった。
 - (2) 委員からの主な意見等は以下のとおり。
 - ウポポイがつけられた経緯やアイヌ文化の復興拠点としての役割も100万人を目指す中で忘れてはいけない、大切にしていかなければならない。
 - 修学旅行でウポポイを訪れて、児童生徒に何を受け取って欲しいか、学校も模索しながら取り組んでいるが、子どもたちと話をしてもただ単に北海道に行っただけと見てきただけと感じているのは残念に思っている。まずは教育従事者に対してなぜ今の時代にアイヌを学ぶ必要があるのか、ということを考えたり伝えられたりする取組やコンテンツがあると良い。
 - 人気漫画とのコラボは集客の観点からは必要だが、様々な思いを持っている人もおり、中にはアイヌ文化の消費と捉える人もいるため、コンテンツづくりには気遣いが必要。
 - 誘客の際に、アイヌ文化を利用していると捉えられる面もある。アイヌ文化をどのように扱うのか、良い方法を考えなければならぬ。様々な関係者の意見を汲み取りながら、展示の仕方や関わり方を都度見直していくことが必要。
 - 北海道庁の北海道総合開発委員会とアイヌ民族文化財団の理事会、そして当検討会を連携させ、戦略の取組を効果的に伝えていきたい。特に、海外向けには、増えているインバウンド向けのツアー造成、国内向けには、広域による旅先納税の導入をフックとして、返礼品の共通電子ギフト券を活用してウポポイと周辺の広域周遊につなげられる取組を進めていきたい。
 - 先日、ベトナムを訪問した際、特に東南アジアの方々には日本のアニメーションや漫画に大変興味を示されていた。戦略で進める香港ブックフェアにおいても、誰に何をどのように訴求していくのか、ターゲットを意識することが必要なため、実施に当たっては関係者の協力をお願いしたい。
 - 戦略で示されたセグメントはまだ大きな塊。ターゲットを絞っていく作業が必要。
 - 白老町をはじめとする近隣住民に日常的に来てもらえる施設にすることを戦略の中で位置付けたことが非常に重要である。特別な文化施設という位置付けも大事だが、道民にとって日常的に立ち寄りやすく、誘い合って訪れる空間になってほしい。

- 移り変わりの早いマーケットの中でウポポイの立ち位置を確立するためには、確固たるイメージを作って、それを継続的に発信し続けていくことが重要。多数ある国内の施設の中でウポポイが生き残るための象徴的なイメージが大事。イメージが誘客の具体的なインセンティブにつながるには、時間を要する。コンテンツの質も大事だが、関係者が方向性について合意し、しっかりとイメージを発信し続けていくことが重要。
- 戦略はゴールではなく軌道修正やモニタリングが必要であり、戦略を定期的に検証し制度的に後押しする体制がある方が望ましい。

- 「ウポポイ」という日本で一つしかない施設が、本質的な価値や目的を高める方向と、多くの人に見てもらおう誘客という方向の両方を求めることは、現場では調整が必要な場面が生じるかもしれないが、ウポポイの本質的な価値をしっかりと伝えることを大前提に、チャレンジングな取組を続けていくことで、成果が出てくるのではないか。
- 関係者がチームワークを組んで、改善のスパイラルを上がっていく、気持ちを合わせていくことが大事。

(注) 本議事要旨は、今後字句等の修正があり得ることを念のため申し添えます。